

市事調第18号  
平成27年1月15日

京都市会議長 中村 三之助 様

市会改革推進委員会  
委員長 寺田 かずひろ

### 市会改革推進委員会報告書

この度、市会改革推進委員会では、平成26年12月22日（第43回）の委員会において、下記の項目について、別添のとおり検討結果を取りまとめましたので、御報告いたします。

#### 記

- 議会報告会・意見聴取会の実施

## 市会改革推進委員会における協議結果について

### ◎ 議会報告会・意見聴取会の実施

#### 【検討趣旨】

開かれた市会の推進及び政策形成機能の充実の観点から、議会報告会や意見聴取会など、議会自らが市民のもとへ出向き、主体的に民意を把握する手法について検討する。

#### 【検討経過】

委員会での議論を経て、8月25日（第40回）の委員会において、これまでの市会改革の取組を報告するための議会報告会を試行実施することを決定した。

なお、議論の過程において、以下の調査を行った。

- 仙台市及び北九州市議会議員へのアンケート調査（5月～6月）  
議会報告会・意見聴取会を開催する意義、効果、課題、参加者を集めるための工夫、個人又は会派の意見を述べることの是非等について、書面によるアンケート調査を行った。
- 兵庫県宝塚市及び北九州市議会への訪問調査（8月）  
各市議会を訪問し、議会報告会の開催に直接携わった議員から説明を聴くなどにより、先進事例の調査を行った。

#### <委員の主な意見>

##### ○ 議会報告会

##### ➤ 実施するかどうか

- ・ 議会として市民のもとへ出向くことが重要であり、説明責任を果たす必要がある。
- ・ 他都市でも課題と向き合いながら継続されており、実施することに意義がある。
- ・ 議会としてではなく会派又は個人で開催すべき。
- ・ 他都市の状況等からも、市民に関心を持ってもらえるのか疑問である。
- ・ 費用を掛けてまで実施するだけの効果がないのではないかと。
- ・ 他都市においても、準備のための事務局の負担が大きいことや、参加者を集めるために苦勞されていることが伺える。
- ・ 実施する場合でも、試行的な実施とすべき。

- 何を報告するのか
  - ・ 全会派の合意の下で進めてきた市会改革について、報告してはどうか。
  - ・ 基本条例や市会改革で取り組んできたことを報告する必要があるのではないか。
  - ・ 各市会の審議状況や議員提案の条例について報告してはどうか。常任委員会ごとにテーマを選定することも考えられる。
  - ・ 各市会についての報告のほか、政策についての報告や意見交換も考えられる。
  - ・ 他都市の視察に関連した報告も考えられる。
- どのように報告するのか
  - ・ 決まったことの報告だけでは、市民にとって魅力的ではない。
  - ・ 結論だけではなく、議論の経過も含めて市民に伝える必要がある。
  - ・ 賛成・反対の理由など会派が意見を述べる時間を設けてはどうか。
  - ・ 参加者から意見を聴いて議会の活動にフィードバックすることが重要である。
  - ・ 議員間で議論するなど、参加者にとって聴きごたえのあるものとする必要がある。
- どのように参加者を集めるのか
  - ・ 市政協力員の方々にお知らせし、参加を呼び掛けていただいてはどうか。
  - ・ 開催場所やその周辺の行政区から選出されている議員が、積極的に声掛けを行ってはどうか。
- 意見聴取会
  - ・ 市民の意見を聴くことについては、あらゆる方法で取り組んでいくべき。
  - ・ 市民の意見を議会として受け止め、審議に反映させるため、市政の課題やテーマに基づいて開催することを検討すべき。
  - ・ 意見聴取会の参加者の意見だけを市民の意見として捉えるべきではなく、現状でも、会派や議員個人が様々な方法で市民の意見を聴いている中で、あえて開催する必要があるのか。
  - ・ それぞれの議員が市民の意見を聴き、議会での議論によって意見を集約していくことが、議会本来の在り方ではないか。
  - ・ 何をテーマとするかによって、意見聴取会の在り方は異なるのではないか。
  - ・ 議会報告会と意見聴取会を明確に区分することは難しい。

## 【試行実施】

10月28日に京都市会初となる議会報告会を開催し、141名の参加があった。なお、開催に当たっては、市政協力委員の方々特に参加を呼び掛けた。開催結果

(別紙)を踏まえ、更に議論を深めた。

<委員の主な意見>

- ・ 参加者には、委員長の報告や司会進行、各会派の発言等を含めて、非常に好意的に受け止めていただいた。
- ・ 議員との接点が多くても、市会改革の取組については知らない場合があり、報告することに意義があると感じた。
- ・ 多くの市政協力委員の方々をはじめ、参加者に議会の活動を知っていただいたことに、非常に大きな意味があり、成果があった。
- ・ 今回、市政協力委員の方に参加していただいたことは、今後、テーマや対象を定めて実施していくための出発点として良かったのではないかと。
- ・ 参加者からは、委員長報告は良かったが、各会派の発言は同じような内容であったという感想や、今後参加したいとは思わないという感想を聞いた。
- ・ 各会派の発言は、もっと自由度を高め、時間も長く確保すべき。
- ・ 参加者からの質問に回答する際、単にそれぞれの会派が答えるのではなく、会派間や議員間で議論を行うべきではないかと。
- ・ 少数会派にも発言の機会があったことがありがたかった。今後についても、各会派が様々な意見を述べられる場であってほしい。
- ・ 多くの市政協力委員の方々に来ていただけたことが特徴的であった。議員からの呼掛けによる参加者が少なかったことは、大きな課題となった。
- ・ 議会として人を集めることの難しさが改めて明らかになった。全会一致で進めてきた市会改革をテーマとし、実施方法についても各会派が意見を譲り合って進めてきた経過があり、容易に継続できるものではない。

**【委員会での結論】**

各会派の意見が分かれ、委員会として、一つの結論には至らなかった。以下に意見を列記する。

- ・ 議会報告会及び意見聴取会ともに、効果的に実施するめどが立たない以上、開催することには否定的である。
- ・ 議会報告会は、会派又は個人で開催すべき。意見聴取会は、市民の意見を聴く機会の一つとして、開催する必要があるのではないかと。
- ・ 議会報告会は、継続して開催すべき。
- ・ 議会報告会は、議会の機能強化の一つとして重要な取組であり、開催すべき。
- ・ 議会報告会は、基本的に会派又は個人で開催すべき。

今任期の議論の内容や議会報告会の試行実施の結果を踏まえ、必要に応じて、来任期において改めて検討することとする。

## 議会報告会の開催結果について

### 1 日 時

平成26年10月28日(火) 午後6時30分～午後8時10分

### 2 場 所

メルパルク京都5階(定員150名)

### 3 内 容

- 市会改革の取組報告(京都市会基本条例の制定, 通年議会の導入, 新たな広報の取組など)
- 各会派の市会改革への思い
- 会場の皆様との意見交換

### 4 運 営

#### 【挨拶】

(開会) 中村三之助議長, (閉会) 井上教子副議長

#### 【司会】

津田大三議員

#### 【市会改革の取組報告】

寺田かずひろ議員(市会改革推進委員会委員長)

#### 【各会派の発言】

(自民) 加藤盛司議員, (共産) 加藤あい議員, (民主・都) 山本ひろふみ議員,  
(公明) 湯浅光彦議員, (京都) 中島拓哉議員, (無所属) 清水ゆう子議員, 森川央議員

#### 【受付】

田中明秀議員, 樋口英明議員, 中野洋一議員, 久保勝信議員

#### 【案内】

山本恵一議員, 西村善美議員, 松下真蔵議員, 平山よしかず議員

### 5 参加者数

141名

### 6 周知方法

9月市会ポスター・チラシ, 市会ホームページ, 各学区市政協力委員連絡協議会会長への呼掛け等

## 7 会場からの意見・質問

5名から8件の御意見・御質問があった。

### 【内容（要約）】

1	議会報告会は、各市会の終了後にも開催してほしい。
2	ホームページでの情報提供は迅速かつ的確に行ってほしい。
3	京都市会基本条例には、議員と市民との直接対話に関する規定がなく、残念であったが、今回の報告会の開催は、開かれた市会への取組として歓迎する。ただ、報告会の概要がホームページ上でなかなか見つからなかった。今後は、ホームページでの情報発信の工夫や、街頭でのビラ配りなど、市会に関心のない市民にも訴えかけるような取組が必要ではないか。
4	市民が議会に参加する必要がある。例えば、附属機関を設置し、市民の意見も聴きながら議会の在り方等を検討すれば、市民と議会のきずなが深まるのではないか。
5	子宮頸がんワクチンの副作用問題について、議員も関心を持ち、市政に反映してほしい。
6	市政協力委員の仕事内容をどの程度理解しているか。広報物を配達することだけが仕事ではない。
7	市民の市政への関心が低いということについては、市民と行政の双方に責任があると思うが、投票率が低いことについて、議会としてどのように認識しているか。
8	無所属議員にも発言の機会を与える配慮がなされていたことをはじめ、今回の報告会は良かった。これからも継続して実施してほしいと思っており、その際には、市政協力委員としてもできる限り協力したい。

## 8 アンケート結果

参加者141名のうち109名からアンケートを提出いただいた（アンケート回収率77.3%）。

【回答結果】 ※以下、割合については、端数処理の関係で合計が100%とまらない場合がある。

### ○ 年齢

20歳未満	0名（0%）	20歳代	7名（6%）
30歳代	11名（10%）	40歳代	15名（14%）
50歳代	24名（22%）	60歳代	22名（20%）
70歳以上	29名（27%）	無回答	1名（1%）

### ○ 性別

男性	84名（77%）	女性	22名（20%）
無回答	3名（3%）		

○ お住まい

京都市在住 95名 (87%)

北 区	7名 ( 6%)	上京区	13名 (12%)
左京区	6名 ( 6%)	中京区	7名 ( 6%)
東山区	5名 ( 5%)	山科区	13名 (12%)
下京区	4名 ( 4%)	南 区	5名 ( 5%)
右京区	10名 ( 9%)	西京区	7名 ( 6%)
伏見区	13名 (12%)	行政区未記入	5名 ( 5%)

京都市通勤・通学 10名 ( 9%)

その他 2名 ( 2%)

無回答 2名 ( 2%)

○ 報告会の開催をどのように知ったか。(複数回答可)

京都市会のホームページ 10名 ( 9%)

ポスター 25名 (23%)

9月市会のチラシ 9名 ( 8%)

新聞 0名 ( 0%)

テレビ 0名 ( 0%)

市政協力委員会の方に向けた案内 50名 (46%)

議員からの呼掛け 29名 (27%)

その他 6名 ( 6%)

無回答 1名 ( 1%)

○ 報告内容の分かりやすさ

分かりやすかった 75名 (69%)

どちらでもない 26名 (24%)

分かりにくかった 6名 ( 6%)

無回答 2名 ( 2%)

○ 報告時間の長さ

長い 11名 (10%)

どちらかといえば長い 26名 (24%)

ちょうどよい 58名 (53%)

どちらかといえば短い 6名 ( 6%)

短い 3名 ( 3%)

無回答 5名 ( 5%)

○ 意見交換は有意義だったと思うか。

そう思う	66名 (61%)
どちらでもない	25名 (23%)
そう思わない	9名 (8%)
無回答	9名 (8%)

<理由>

・「そう思う」

1	意見交換の時間は最も重要であると思う。会派ごとの答えが聴けるほどの時間の余裕があれば、なお良かった。
2	市民が意見を述べられる機会である。ただし、会場との意見のやり取りは難しいと思う。
3	趣旨から外れた質問は残念であった。そのような場合、司会者が遮る場合があることを、冒頭で言及してはどうか。
4	市民の生の声分かる。ただし、質問は限定するべきである。
5	意見の相互交換ができた。
6	直接、意見交換をすることの意義は大きい。
7	市民が直接議員に言いたいことを言える機会となったから。
8	前例のない取組の中で、市民の意見を聴くことは素晴らしい。
9	かなり活発な議論がなされたと思う。
10	議会と市民との接点ができてよい。
11	議会のことを知るきっかけになった。
12	それぞれの議員・会派の方向性が少し理解できたと思う。
13	自分の知らないことが分かって良い。
14	他の人の意見が聴けたので良かった。
15	市民と議員が同じ方向性を向いてきていると感じたから。
16	今後の議会報告会の在り方を考える材料がたくさんあった。
17	開かれた市会に向けた取組として報告会を開いたことや、参加者の人数の点からも有意義であった。
18	投票率の質問に対する答弁は良かった。

・「どちらでもない」

1	時間をより長く取ってほしかった。
2	会派を超えた報告会とは思えない所が少しあった。
3	意見交換を有意義にするためには、もう少し工夫がいるのではないかな。
4	議員の思いを聴けて良かった。



・「そう思わない」

1	時間が短すぎる。
2	内容がなかった。

・「無回答」

1	市民参加を進めるためには、どうすればよいか。議員と市民が話をする機会を増やさなければ、市民の意見やアイデアを聴くことはできない。
---	--

○ 意見交換時間の長さ

長い	1名 ( 1%)
どちらかといえば長い	13名 (12%)
ちょうどよい	50名 (46%)
どちらかといえば短い	25名 (23%)
短い	7名 ( 6%)
無回答	13名 (12%)

○ 報告会の満足度

満足	56名 (51%)
どちらでもない	38名 (35%)
不満足	9名 ( 8%)
無回答	6名 ( 6%)

<理由>

・「満足」

1	議会改革の意義、市民にとってどのような意味があるかを議会自らが市民に直接話をすることに大きな意義がある。テーマを行政課題にした報告会の開催も期待する。
2	直接意見交換ができた。報告会は、京都市会に対する理解を深めるという点で良いと思う。
3	意見交換があったから。
4	市会の基本的なことが学べて良かった。市会の知識が全くなくても、理解することができた。
5	議会の内容を今まで以上に知ることができた。
6	議会運営の今後の方針がよく理解できた。
7	市会改革の取組、各会派の姿勢がよく分かった。
8	議会のことを知ることができた。
9	現在の議会の状況を知ることができた。
10	パワーポイントを用いた説明がとても分かりやすかった。
11	通常は、地元の支持している議員からの報告であるが、各会派の考えが個別に聴けて良かった。

12	無所属の議員にも発言の機会があったから。
13	多くの参加者が、今回の報告会を評価されているという空気を感じた。
14	議員それぞれの熱意が感じられた。
15	今後の議会報告会の在り方を考える材料がたくさんあった。
16	今回としては良かったのではないかと。次回以降が本番になると思う。
17	まずは、第一歩であったと思う。
18	初めての試みであった。
19	意見交換以外は満足であった。

・「どちらでもない」

1	意見交換の時間が短かった。
2	各会派の報告は自分には必要ない。報告時間が長く、質問時間が短い。
3	報告時間が長かった。各会派の報告では、スライド等が用意してあればよかったと思う。
4	各会派の説明がほぼ同じであった。
5	各会派の意見・考え方が違いすぎる。
6	各会派の考えをバラバラに聴いているだけの感があった。
7	公平にという気持ちは分かるが、発言者が多すぎる。
8	大勢の参加者がいる中で意見交換を行うのは難しい。地域単位(できるだけ少人数)の集まりでの意見交換が望ましい。
9	市政協力委員だけに周知しても、そこから発信されるかは少し疑問である。
10	もう一步踏み込んでほしい。
11	初めての試みであるから、今後、充実されることに期待する。
12	今回の初めての議会報告会をベースとして、今後、進歩・推進していくことが大切だと思うので、満足・不満足は判断できない。

・「不満足」

1	各会派の報告は重複した内容だった。
2	個性のある報告が聴きたい。
3	常任委員会の話を聴きたい。
4	茶番劇であった。

○ 今後も何らかの形で報告会が開催された場合、参加したいと思うか。

はい	94名 (86%)
いいえ	9名 (8%)
無回答	6名 (6%)

<理由>

・「はい」

1	もっと市民に議会のことを伝えるべきであり、市民も知るべきだと思うから。
2	報告会を開催し、議会が市民に説明責任を果たそうとするなら、市民の側にもそれをきちんと受け止める務めがあると思う。
3	議会(議員)も市民も共に成長していく必要があるから。
4	常々、議会の活動内容が一般市民に伝わっていないから。
5	議会として市民の意見を直接聴く貴重な機会であるから。
6	党派や会派を超えて議会が進展する話を聴きたい。
7	もっと時間が短くてもよいので、最新の議会の状況を聴きたい。
8	議会での審議状況を知りたいから。
9	今後の市会改革を知るうえで参加したい。
10	提案理由を克明に聴きたい。
11	各議員から率直な意見を直接聴くことができるから。
12	直接、議員の話が聴けるから。
13	もう一度、各会派の議員の思いを聴きたい。
14	各会派の議員が一堂に集まり、話を聴けたことが良い。
15	各会派が一堂に会して、市民がそれぞれの意見を聴くことができる場があるというのは、とても良い。
16	若い議員の意見や思いがよく分かる。
17	是非、各市会が終わる度に開催してほしい。
18	市会ごとに開催してほしい。
19	議会運営について、少しでも関心を持ちたいから。
20	まだまだ知らないことがあるから。
21	特定の条例についての報告会などがあれば参加したい。
22	テーマの設定による。
23	今後の内容による。
24	内容をもっと深く掘り下げてほしい。
25	事前にテーマを公表してほしい。
26	参加したいが、もう少し早めに告知をしてほしい。
27	時間があれば参加したい。
28	参加したいが、市政協力委員を集めることはやめてほしい。
29	有意義であったので、会派を超えた京都市会の取組等に期待する。
30	更に変化していくであろうから期待する。

・「いいえ」

1	第1回目にしては準備が不十分であった。もっと市民に周知するべきである。
2	地元(学区)で運営していくうえで、プラスになるような報告にしてほしい。市民しんぶんで十分だと思う。
3	ビジョンがない。

・「無回答」

1	報告会の内容による。本日の報告会では不足である。
---	--------------------------

○ 報告会の実施方法等について、気付いた点

<内容について>

1	他都市の実施例にこだわらず、京都らしい方法を検討してほしい。超党派の報告と区別して、会派の考えをしっかりと発言されたのは良かった。
2	各会派の発言は、熱意が伝わってきて良かったが、もう少し簡潔に話してもらった方が良かったと思う。
3	個人や会派の意見、常任委員会の話が聴きたい。もっと入り込んだ話が聴きたかった。
4	テーマを決めて行くと、良い議論ができると思う。
5	今回は、初めてということで、報告会を開催することに主眼が置かれ、少し内容が広がり過ぎていた。次回以降は、もう少し内容を絞って、具体的な話がほしい。
6	テーマ設定や、会派間の意見交換の在り方を検討すべき。
7	報告の内容について、テーマを絞るなど、言いたいことを言いつばなしにならないよう工夫が必要ではないか。
8	常任委員会ごとの報告を聴いてみたい。
9	参加者に若い人たち(学生層)が少ないと感じた。「学生のまち」と言えるにふさわしい報告・内容となれば更に良いのではないかと思う。
10	各会派の発言は不要ではないか。テーマを絞り、意見交換の時間を長く取った方がよい。
11	会派の発言は、重複する部分が多く、委員長の報告だけでよいのではないか。
12	各会派の報告はいらない。議会の内容をもっとたくさん聴きたい。
13	委員長からの説明だけでよい。各会派の発言は、同じ内容ばかりであり、特徴がない。
14	会派の持ち時間に疑問を感じる。なぜ無所属の議員にあれだけの時間が与えられるのか。
15	自分の政党の宣伝ばかりする議員がいた。
16	党の宣伝ばかりが目についた。
17	各会派の発言は、会派のPR合戦になっているように感じた。
18	関心を持った市民が参加しているのに、意見交換が短い時間になるのはおかしいと思う。同じような議員の話よりも、意見交換に時間を割くべき。
19	意見交換の時間が短すぎる。
20	市民とのやり取りは有益だと思う。

21	議員の成果が見えてこない。
22	今回は議会報告であるため仕方がないが、現場(各学区)で役立つ話(例えば、自治会の加入者増加策等)をしてほしい。
23	もっと楽しくしてもよいと思う。

#### <開催時期・時間・場所等について>

1	行政区ごとの開催を希望する。
2	行政区ごとに開催してほしい。
3	報告会の継続と、会場を行政区ごとに持ち回りにすることを検討してほしい。
4	報告会は複数回開催することが必要である。
5	定期的に開催してほしい。
6	市政協力委員以外の参加者がいることも忘れないでほしい。難しいと思うが、土・日であったり時間帯を工夫することで、参加できる人が変わると思う。
7	土・日の開催も含めて検討してほしい。
8	場所が遠すぎる。時間帯が悪い。
9	少人数のグループで実施してほしい。
10	議会について全く知らない人にとっては、説明が難しいように感じた。レベルを分けて実施するのも良いと思う。

#### <広報・集客について>

1	若い人にも参加してもらえるような働き掛けをすべき。それが投票率の向上にもつながる。
2	告知についての改善と、もっと若い世代に参加してもらうために興味を持ってもらう必要がある。
3	偶然、地下鉄のポスターを見て参加したが、議会にあまり関心のない人が多い中で、どうすれば市民に足を運んでもらえるのかについて、知恵を絞ってほしい。
4	参加者の年齢層が高いと感じた。
5	市政協力委員だけを集めるのでは、あまり意味がない。
6	今後、参加対象者の範囲を含めて、検討してほしい。
7	広報は、まだまだ工夫が必要である。回を重ねるにしたいが、市民側の意見もこなれてくると思う。
8	本日の報告会の開催に当たり、事前の告知をもっとしっかりしてほしかった。
9	参加者と議員が議論する場ではないということも含め、事前の周知を十分にすることが必要である。

<その他>

1	なかなか前の方には座りにくいものなので、開場してから、何度かマイク等で案内をしてもよいと思う。
2	あらかじめ、質問を記入してもらい、集めてもよいのではないか。
3	席札の氏名以外の文字が小さい。
4	会場までマイクロバスの送迎がほしい。交通費を支給する。
5	京都・地域・まちを良くすることであれば、党派や会派を超えて、共通の課題・問題点についてスピード感を持って深く審議してほしい。
6	「超党派で」という考えが重要である。本当に京都にとって必要な事柄を高所から見極める姿勢で取り組んでほしい。
7	もっと市会は市民に近づいてほしい。

○ 市会改革の取組をはじめ、京都市会の活動に対する意見等

1	議会基本条例は、議会内の申合せではなく、市民との約束事である。市民がこのような条例を持つことになったのであるから、その約束事を放っておくことなく、常に推進してほしい。
2	市会の活動内容は、市民にとって、あまり分かりやすいものではないので、今回に終わることなく報告会等の工夫を続けていってほしい。
3	今回の報告会の開催は、改革に取り組む姿勢の好事例である。是非、続けてほしい。非常に丁寧な報告会であった。
4	議会基本条例の肝は、報告会である。集中審議期間が終われば、報告会を開催すべきである。
5	USTREAMでの中継など、公開していく姿勢が表れている取組は素晴らしいと思う。公開するだけではなく、「飛び出していく」ことも必要であると感ずるので、もっと市民の日常生活の中に、市会が近づいていく取組も期待している。
6	市民にとって議会がもう少し身近に感じられるとよい。もっと若い世代が政治に興味を持ちやすい環境ができればよいと思う。
7	市民の意見に耳を傾ける。
8	市民のために、議員が頑張っているのは分かるが、直接市民に喜ばれることをしてほしい。
9	条例提案に必要な議員数や交渉党派などの人数の見直し。
10	議会が災害時に速やかに対応するためにも通年議会の導入は歓迎する。
11	請願者が直接発言できるようになれば収拾がつかなくなるのではないか。
12	市会改革は、会派を超えて行うべきである。
13	専門用語が多く、難しい点は改善してほしい。
14	大学の多い京都のまちの特性をいかし、専門的な知識を活用してほしい。一般の人が大いに参加できる環境を作してほしい。
15	京都市会が、議会としてここ数年で随分変化してきたことがよく分かった。これからも真に市民の目線に立って、京都市の発展と市民の幸せのために頑張してほしい。

16	政務活動費の残念なニュースもあったが、今後とも京都市のため、市民のために頑張ってもらいたい。
17	市民がより住みやすく、活力ある京都になるよう、ますます頑張ってもらいたい。議員に期待している。
18	長い目で京都が住みやすくなるよう、議員に期待する。
19	身近な議員から、様々な苦労があることを聞き、頭が下がる思いでいっぱいである。
20	とても良いことだと思う。
21	政令市ナンバー1を目指してほしい。
22	京都市会、頑張ってください。
23	御苦労さまでした。ありがとうございました。
24	市会がこれまで、いかに曖昧な状態で活動していたのか、そして、今回、一からルール作りに取り組み、改革を進めてこられたのかが分かった。
25	京都市会は明治22年の第1回会議から同一であるのか、京都の独自性、アイデンティティの根拠の在り方に疑問を感じる。
26	もっと自分自身が勉強して、質問できるようにしたい。
27	「やりました」と言うが、それは当然である。そのために、議員を選んでいる。
28	市政協力委員の仕事として、配布物が多い。配布は業者に依頼し、もっと市政の繁栄に貢献したり、町内会の加入率をあげたりといった活動が行えるよう、配慮してほしい。
29	市政協力委員はどのように選ばれているのか。
30	税収減を問題としていたが、税収を増加させる政策(税率を上げるのではなく、経済成長を中心とした政策)は検討していないのか。
31	一人親が増加しており、その方々に寄り添う取組をすべき。
32	京都市は南北の道路が少なく、車が多すぎる。議員も曲がり角で演説をされると危険である。市バスの中が騒がしい。犬の糞尿対策をしてほしい。